高科大應用外語學報第二期
Journal of Applied Foreign Languages
pp.61-76, Volume 2, November 2004


# 遠藤周作耶穌形像的塑造及其變容

**林水福**
**國立高雄第一科技大學應用日語系**

## 摘要

現實世界裡的耶穌，究竟長成什麼樣子？其實並不清楚。

本文以遠藤周作小說為主，探討作品中遠藤如何形塑耶穌，又在不同作品中改變耶穌形象，具有何種意義或作用。

《我・拋棄了的・女人》中，耶穌基督的輪廓極為模糊，沒有畫上眉毛，也看不出眼睛在哪裡。卻有著一張疲倦的臉，從森田蜜身上，讓我們看到「祂」。

《沉默》中，耶穌基督並非一直沉默著，而是藉著洛特里哥的人生，告訴世人祂的存在— 陪伴著一起受苦；透過吉次郎屢次出賣洛特里哥，告訴我們耶穌基督「寬恕」者的形象。

《武士》裡的耶穌基督形象是「醜陋的、污穢的」，甚至於是「一輩子忠實於主人的狗」。

《深河》中，以「洋蔥」代替耶穌，從基督宗教擴大到所有宗教。讓天主教神父的大津背負印度教徒的老太婆，意味著宗教間的對話，是「愛」的具體呈現，也是各種宗教共通的本質。

《深河》裏打破人為的宗教框架，直指宗教根源的共通之處，遠藤的基督形象的塑造於此完成，也劃下完美的句點。

**關鍵詞**：父性宗教、母性宗教、耶穌基督、沉默、祈禱、天主教。

# 遠藤周作のキリスト像の創造及びその変容

林水福
国立高雄第一科技大學応用日語系

## 摘要

現実社会の中でのキリスト像はいったいどのように捉われているのか。その実のところよくわかっていないのではないのだろうか。

本稿は遠藤周作の小説を題材に、作品の中で如何にキリスト像を作り上げていくのか。また、如何に作品の中でキリスト像を変え、それがどのような意義と社会性を持っているのかを探っていく。『私が･捨てた･女』の中で描かれているイエス･キリストの輪郭は極めて曖昧で、眉毛は描かれていないだけでなく、眼精もどこに存在してあるのかが分からない。しかし、疲れ果てた顔を持つ。森田蜜から私たちは「かれ」のそれを見て取れる。『沈黙』でのキリストは決して常に沈黙している存在ではない。ロトリゴの人生を借り世間の人に「かれ」の存在を示し告げているようだ。共に苦しむ様。幾度となくロトリゴを裏切る行為は、私達にイエス･キリストの「寛容」的なイメージを見せている。

『侍』の中でのイエス･キリスト像は「醜悪、穢れ」であり、しかも、「主人の忠誠なる犬」でもある。

『深河』の中では、「玉葱」がキリストの代わりとなり、キリスト教から全ての宗教へと広がり、カトリック教神父大津にヒンドゥー教信者の老婆を背負わせた。その意義は宗教間の対話と見られ、「愛」の具現表現であり、多様な宗教に共通した本質を描き示している。

『深河』は人が持つ宗教的な枠組みを打ち破り、宗教の根源である共通したところを目指し、遠藤のキリスト像の創造がここに完成を見せ、一つの終焉を描き上げていると言える。

キーワード：父なる宗教・母なる宗教・イエス･キリスト・沈黙・祈祷・カトリック